

PACIFIC with GULF RACING「GULF NAC PORSCHE 911」

新体制の 2017 年開幕戦で 3 位表彰台を獲得！

#9 GULF NAC PORSCHE 911 レース結果

2017 AUTOBACS SUPER GT 第 1 戦 OKAYAMA GT 300km RACE

4 月 8 日(土) 予選 天候/コース:曇り/ドライ

予選 Q1 ポジション:15 位(1' 26"965)

4 月 9 日(日) 決勝 天候/コース:曇り/ドライ

決勝ポジション:3 位(Best Lap 1' 26"898)

SUPER GT シリーズ 2017 が、4 月 9～10 日に岡山国際サーキットにおいて開幕。PACIFIC with GULF RACING「GULF NAC PORSCHE 911」(ジョノ・レスター/峰尾恭輔)は、GT300 参加 30 台中、予選 15 位からのスタート。パレードラップからストップしてしまう車両が出る波乱の展開のなか、そこから追い上げ終盤には 3 位へポジションを上げてチェッカー。表彰台を獲得する上々のスタートを切った。

Gulf Racing JAPAN は 2014 年に発足し、2015 年には GT Asia シリーズへ参戦。昨年は PACIFIC RACING TEAM とジョイントし、日本で最も人気を集める SUPER GT シリーズ GT300 クラスに参戦し、最終戦で 8 位入賞を果たした。一方 PACIFIC RACING TEAM は、2009 年に発足し、2013 年から 2014 年まで投入してきたポルシェでの Gulf Racing JAPAN との GT300 参戦を 2016 年から行い、今年が 2 シーズン目の体制となる。車両は昨年に続きポルシェ 911 GT3R を用い、往年のル・マン 24 時間での GULF カラーをまとった。監督はチーム代表の国江仙嗣に代わって八代公博が就任。ドライバーはニュージーランド人のジョノ・レスター(27)、GT300 シリーズチャンピオン経験を持つベテランの峰尾恭輔(42)を起用。またメンテナンスは、Gulf Racing JAPAN と同じ岐阜県にある NAC(中日本自動車短期大学)内にガレージを置き、同校の教員と選抜された学生がピットクルーとしてチームのサポートを行いながら、プロアマ混成での参戦となる。

岡山国際サーキットは、1990 年にオープンした 1 周 3.703km のサーキットで、F1 パシフィックグランプリも開催されたことがある。2 本のストレートを 13 のタイトなコーナーでつないだテクニカルコースで、コース幅が狭い場所があり、オーバーテイクも簡単ではない。ポルシェ 911 GT3R は新たな性能調整(BoP)を受け、最低車重は 1,220kg と昨年より軽くなりリストラクター径は 40.0mm × 2。開幕前の公式テストでは好タイムをマークしており、開幕戦からの活躍に期待がかかった。

岡山には 15 台の GT500 車両、30 台の GT300 車両、計 45 台が参加。8 日朝に行われた公式練習では、峰尾、レスターがドライブしてセッティングを確認し 5 番手につけた。気温 21℃、路面温度 23℃で始まった公式予選 Q1 ではレスターがコースイン。しかし前方を走行する車両のハーフスピンに巻き込まれそうになるなど、アタックのタイミングに恵まれずまさかの 15 位、上位 14 台が進める Q2 への進出はならず、これでスタート順位が確定となった。Q2 進出へのボーダーラインとはわずか 0.057 秒差だった。

前夜にうっすらとコースを濡らした雨も上がった決勝日。今年は朝のフリー走行がなくなり、決勝レース前には 20 分間のウォームアップ走行が実施された。ここでは 18 番手にとどまったが、ふたりのドライバーは車両の状態を確認。どこまで追い上げられるか注目が集まった。そして曇り、気温 19℃、路面温度 25℃というコンディションの 14 時 34 分にパレードラップがスタートした。ところがここで停止してしまう車両があり、また続くフォーメーションラップでも 2 台の車両が動けなくなり、スタート進行は一旦ストップ。改めて 14 時 50 分にセーフティカー(SC)の先導で 81 周に減算された決勝レースが始まった。2 周終了で SC が隊列から離れてバトル開始。レスターはポルシェに鞭を入れて、6 周目までに 5 台をかわし、14 周目にはトップ 10 入り。さらに 27 周目から早めのピット作業に入る車両が出てくると、中盤の 34 周目には暫定的に 2 位まで順位を上げてピットイン。ここで峰尾に交代した。タイヤは 4 本を交換し、燃料補給も済ませて、峰尾は暫定 11 位でコースへ戻った。

ピットインを遅らせていた車両が 48 周でピットインすると、峰尾は 6 位まで順位を上げた。さらに目の前には 5 位の車両がおり、逆転を狙っていた 51 周目、2 コーナーで激しいクラッシュが発生。ここで車両と飛散したパーツの回収のために SC が導入され、4 位から 9 位までの 6 台の距離が一気に縮まった。57 周終了時点でバトルが再開されたが、このラップで峰尾は 2 台を抜き去り 4 位へ浮上。さらに終盤の 70 周目に 2 位を走行していた車両がスピンを喫し、その脇をかすめて 3 位へポジションアップ。前を走行する 2 台とは距離はあったものの、その順位を守って歓喜のチェッカーを受けた。

八代公博監督

「監督初陣で表彰台を獲得できてこんなにうれしいことはありません。ドライバーもスタッフもみんな頑張ってくれました。15 位スタートとなってジョノも責任を感じていたようで、序盤から順位を上げてくれました。最後はもうガソリンはギリギリ。ピットワークもミスなくこなせましたし、タイヤのマッチングも良かった。パーフェクトなレースになりました。応援ありがとうございました」

ジョノ・レスター選手

「若くて新しいチームに加入して 3 位で表彰台。ずっと SUPER GT で活躍したいと思っていましたから、夢がかないませんでした。予選では渋滞時の判断を間違えてしまい、またアンラッキーな面もありました。もともとポルシェに長く乗っていたので、全く違和感はありません。日本のサーキットは全部走って知っていますし、次は表彰台の真ん中を狙いたいです」

峰尾恭輔選手

「チームは開幕前から僕のわがままを聞いてくれて、いろんなリクエストに応えてくれました。感謝します。予選はうまくいかなかったので、タナボタでも 5~6 位あたりを狙って、死ぬ気で頑張ろうと思っていましたが、このチームへ移籍初戦で、みんなに表彰台をプレゼントできて本当に良かったです。強いチームになったと思いますし、チャンピオン争いに加わって、チームのみんなで笑いたい。次の富士も得意なので優勝を狙って走ります」